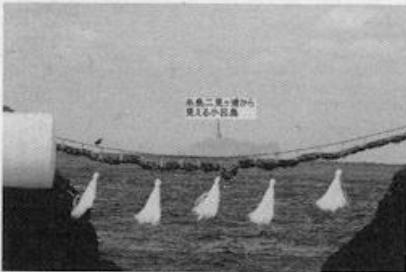


寄稿

古事記の国生み神話と小呂島

福岡市立小呂小中学校教諭 山口哲也

「島の早急な遺跡調査が待たれる」



糸島の二見ヶ浦から小呂島をのぞむ。
小呂島が神聖視されていた？

玄界灘に浮ぶ小呂島。おろのしま その福岡市立小呂小中学校に勤務する山口哲也教諭(42)は、この島が豊かな自然に恵まれているだけでなく、日本創生の國生み神話の主要な舞台ではなかつたか、と考えるに至つた。併せて近隣の相島、玄界島、大島、姫島、志賀島、一見ヶ浦(夫婦岩)の比定考察もあつて興味深い。以下、山口氏の寄稿である。

神話と小呂島

小呂小中学校教諭 山口哲也

調査が待たれる」

古事記の國生み神話は、イザナギ神とイザナミ神が天浮橋から天沼矛で海をかき混ぜたことから始まります。これらの神話は事実ではありませんが、神話は何かしらの史実が元となっていることは、多くの学者の指摘するところで

す。私は國生み神話は渡来勢による玄界灘の攻略史がではないかと仮説を立て、調べてみました。結果、國生み神話の最後に出てくる小さな六島(図参照)が玄界灘の島々に必定できる可能性があることに気づきました。

小呂島は古来、「大蛇島」、「於露島」などの表記も見られますが、江戸時代もつとも一般的な表記だったのが「於呂島」という表記です。これは前記の二神が最初につくり降り立つたとされている「淤能暮呂島」と表記が似ています。また、オノコロ島に見立てた天の御柱とは壹岐島(古事記では天比登都柱)とも表記ではないかと私は考えてい

まず、オノゴロ島ではないかといわれる候補には多くの島がありますが、これらの候補の中では小呂島だけです。ピロウはヤシの一種で、仁徳天皇のオノゴロ島を詠んだ詩に登場します。また古代天皇家に

は、壱岐島が目の前によく見えます。渡来軍が最初に小島島を制圧し、次に壱岐島を制圧、玄界灘の島々を次々攻略したと考えるなら、渡来勢力の一軍が能古島に拠点を構えたと考えてもおかしくありません。それで、オロとノコをあわせてオノゴロ島といわけです。さてここで推理だけでなく、いくつか参考となる事実をあげておきます。

ます。オノゴロ島に「見立てた」とは、「獲得目標にした」との意味ということです。小呂島から壱岐はすぐ目と鼻の先なのです。つまり壱岐を攻略するため、イザナギ軍とイザナミ軍が壱岐を挟み撃ちした中実が神話となつた可能性があると考えています。

また、二神がオノゴロ島をつくるとき、海を矛で「こおろこおろ」と搔き回すとあります。が、これも小呂島に由来があると思います。小呂島に「御手水」という海岸から20mほどの高さの海に向かって開く、すり鉢状の地形をしている崖があります。波が打ち寄せるごとに石ころが転がる音が増幅されて、ここだけ「こおろこおろ」と不思議な音がするのです。その御手水から

呂島を伝説の遊能暮呂島として祀っていた伊都国勢力が、奈良に移ったとき工の「游能暮呂島」を造り、祀る対象としたと考えられなくもないません。

とつて最も神聖物とされていましたが、柳田國男や信夫らの民俗学者によつてあきらかにされています。小ビロウは七社境内に自生しています。神社の拝殿北端の出方位にも十自生地最北端の出方位にも十すれも天然記念物である竹野浦がござります。地球環境学研究教授の論文では、ロウが祭祀目的可能性を説いており、小呂島も同様で測されます。



小呂島を始め、周辺の六つの小島を古事記の国生み神話と比定してみると、上の国のような解釈が出来るのではないだろうか。

鹿は九州本土での平戸口に向い、島から冬至の日が八分県の自生地あります。いわゆる忘物です。総合研究所の秋道名営は、沖ノ島のビーチで移植されたていますが、小島浦から見た小田壇の形にそつて。それも寺門提唱された纏向形です。寺澤薰小山、多数の支石墓らしき石組みなどがあります。早急な小品島の遺跡調査が待たれます。

七社神社にはヤシの一種、
ピロウが自生している。
古代天皇家が最も神聖な
植物としていた貴重なものだ

環境プラント・建物ビルの運営メンテナンス企業

MIKASA 三笠特殊工業(株)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目5-28
TEL 092(431)3829 FAX 092(481)7310



割烹旅館 活魚料理
満帆莊

福岡市東区大字勝馬
TEL 092-603-6649